

ファイル暗号化プログラム 3.0 操作マニュアル

目次

1 . ファイル暗号化プログラムの概要	3
1 - 1 . 暗号化及び復号処理	4
1 - 2 . 施錠及び開錠処理	5
2 . システムの入手、インストール、アンインストール	6
3 . ユーザー登録	7
4 . 設定	8
4 - 1 . 暗号 / 復号単位	9
4 - 2 . 下位フォルダーの処理	10
4 - 3 . 鍵文字列の記憶	11
4 - 4 . 鍵文字列管理パスワード	12
4 - 5 . 鍵文字列の登録削除	14
4 - 6 . 初期化	15
4 - 7 . 鍵文字列の指定	16
4 - 8 . 設定のエクスポート	18
4 - 9 . 設定のインポート	20
5 . ファイルの暗号化 / 復号	22
5 - 1 . 暗号 / 復号ファイルの指定	23
5 - 2 . 出力ファイルの指定	24
5 - 3 . 暗号 / 復号処理	25
6 . フォルダの暗号化 / 復号	26
6 - 1 . 暗号 / 復号フォルダの指定	27
6 - 2 . 出力フォルダの指定	28
6 - 3 . 下位フォルダの処理	29
6 - 4 . 暗号 / 復号処理	30
7 . ファイルの施錠 / 開錠	31
7 - 1 . 施錠 / 開錠ファイルの指定	32
7 - 2 . 施錠 / 開錠処理	33
8 . フォルダの施錠 / 開錠	34
8 - 1 . 施錠 / 開錠フォルダの指定	35
8 - 2 . 下位フォルダの処理	36
8 - 3 . 施錠 / 開錠処理	37
9 . 進捗表示	38
9 - 1 . プログレスバーの表示	39
9 - 2 . 進捗状況の表示	40

9 - 3 . 処理の中止	41
9 - 4 . 後処理	42
10 . フォルダー操作	43
10 - 1 . フォルダーコピー	44
10 - 2 . フォルダー移動	45
10 - 3 . フォルダー削除	46
付録 1 . 使用条件、注文方法	47

1. ファイル暗号化プログラムの概要

ファイル暗号化プログラムは、簡単な操作で指定した一つのファイルまたはフォルダー内のファイルを暗号化 / 復号、または施錠 / 開錠するプログラムです。ファイル暗号化プログラムの機能は、暗号化 / 復号と、施錠 / 開錠の二つの系統から構成されています。

ファイルの暗号化及び復号または施錠及び開錠は、鍵文字列を指定して行います。鍵文字列は、8 バイト以上の50 バイト以下の任意の文字列です。

たとえば、暗号化処理を使用して、重要な機密情報をメールなどで送付するときに暗号化してから送付すれば、機密を確実に保護することができます。また、使用している PC の中の重要な機密ファイルを機密保護用のフォルダーに格納し、フォルダー自体を暗号化することにより、PC の情報の機密を保護することもできます。

施錠処理を使用すれば、暗号化処理よりもはるかに短時間で、PC 内の機密ファイルまたは機密フォルダーに鍵をかけてアクセスを困難にし、不正なアクセスを防止することができます。

ファイル暗号化プログラムは、情報化時代の安全保護に必須の強力なセキュリティツールです。

警告：暗号化、施錠処理は、対象ファイルの内容を書き換えて対象ファイルを正常にアクセスすることを妨害することを目的としています。この処理を、システムファイルや実行中のプログラムファイルに対して行くと、パーソナルコンピューターの構成が破壊される場合があります。このような処理は、決して行わないでください。

1 - 1 . 暗号化及び復号処理

暗号化処理は、対象となるファイルの内容を書き換えて、内容を正常に読み取れなくする処理です。暗号化されたファイルは、復号処理で元の状態に復元することができます。暗号化されたファイルは、内容が書き換えられているとはいえ、通常のファイルと同じように取り扱うことができます。たとえば、他の媒体に複製したり、移動したりすること、あるいは、電子メールその他の通信を通して他のサイトに送付することができます。暗号化されたファイルは、どこに置かれていても、たとえば、おなじパーソナルコンピューターの別のフォルダーに置かれていても、あるいは他のパーソナルコンピューターに移動しても、復号処理を実行することによって元の状態に復元することができます。

警告：暗号化、施錠処理は、対象ファイルの内容を書き換えて対象ファイルを正常にアクセスすることを妨害することを目的としています。この処理を、システムファイルや実行中のプログラムファイルに対して行くと、パーソナルコンピューターの構成が破壊される場合があります。このような処理は、決して行わないでください。

1 - 2 . 施錠及び開錠処理

施錠処理は、パーソナルコンピューター上のファイルに対する通常のアクセスを困難な状態にして、内容の参照、変更等を行えないようにする目的で施される特殊な処理です。施錠されたファイルは、開錠処理を行うことにより、アクセスを行えるようになります。施錠処理の実施所要時間は、対象ファイルのサイズにかかわらずほぼ一定です。

施錠処理はパーソナルコンピューター上のファイルに対する通常のアクセスを行えなくする処理です。施錠されたファイルは、同名の鍵ファイルに変えられますが、この鍵ファイルは元のファイルの本体に関する復元情報を記録したファイルです。施錠されたファイル自身に対する通常のアクセス、たとえば複写、移動、転送、削除は、開錠処理をするまでは正常には行えなくなります。鍵ファイルに対して、このような処理を行うと、記憶されている施錠状況が破壊され、開錠処理を正常に行えなくなることがあるので注意してください。

警告：暗号化、施錠処理は、対象ファイルの内容を書き換えて対象ファイルを正常にアクセスすることを妨害することを目的としています。この処理を、システムファイルや実行中のプログラムファイルに対して行うと、パーソナルコンピューターの構成が破壊される場合があります。このような処理は、決して行わないでください。

2 . システムの入手、インストール、アンインストール

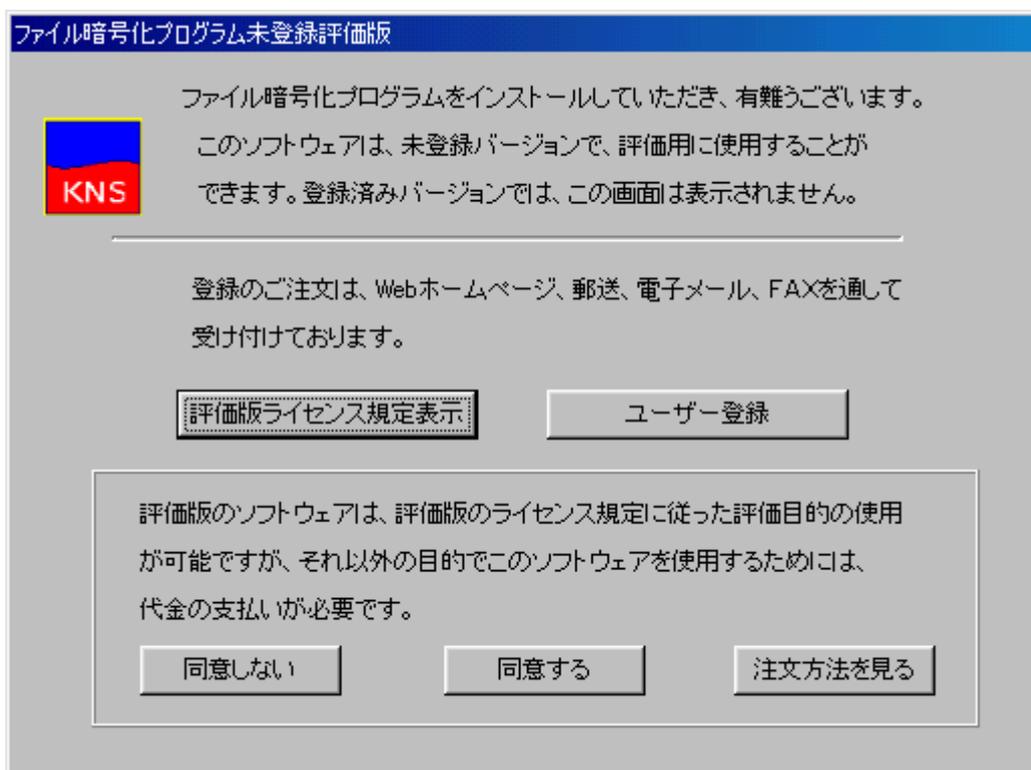
ファイル暗号化プログラムの評価版のインストールシステムは、YAHOO, Vector などのダウンロードサイト、あるいは有限会社コーナンソフトのホームページのダウンロードページ(<http://home.a00.itscom.net/konansft/eps/base/eps10.htm>)でダウンロードすることができます。

ダウンロードしたファイルを実行することにより、システムをインストールすることができます。ファイル暗号化プログラムはシェアウェア製品であり、評価目的以外でこれを使用する場合には、代金の支払いが必要です。詳細は、ユーザー登録、使用条件及び注文方法を参照してください。

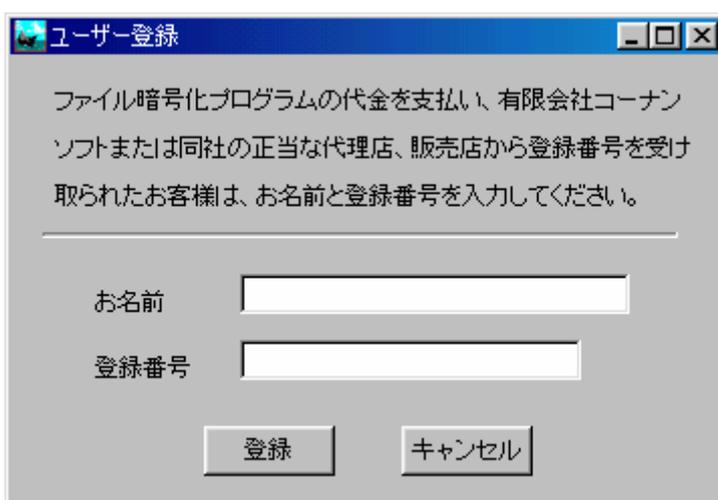
ファイル暗号化プログラムをアンインストールする場合は、Windows システムの「アプリケーションの登録と削除」でファイル暗号化プログラムを選択し、削除してください。

3. ユーザー登録

ファイル暗号化プログラムの評価版では、21日間の評価期間が経過すると起動時に毎回以下の確認画面が表示されます。



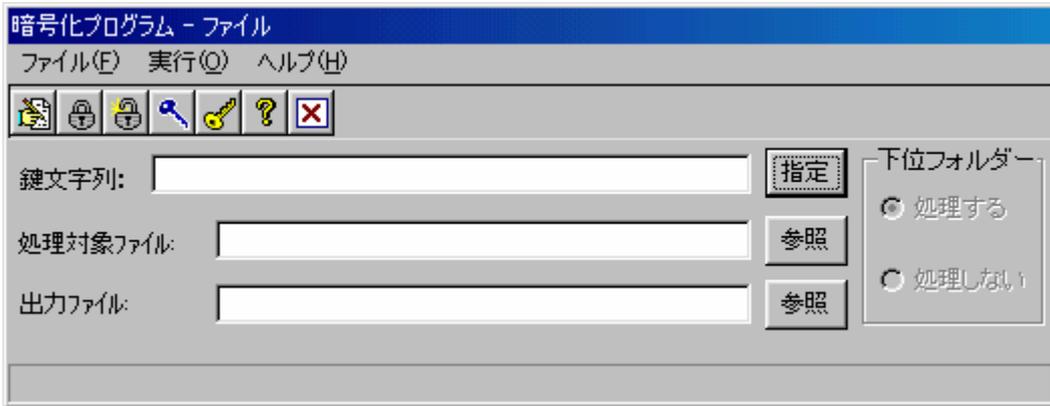
この画面で、「同意する」のボタンを押すと、システムのメイン画面が表示されます。製品を注文して、ユーザー登録を行うと、この画面は表示されなくなります。



ユーザー登録をすると、ファイル暗号化プログラムは評価版ではなく、登録版に変わり、使用条件も変更されます。

4. 設定

インストールしたシステムを起動すると、メインウィンドウが表示されます。



このウィンドウでのメニューバーで、

ファイル 設定

を選択するか、または  ボタンを押すと、「暗号化オプション指定」ダイアログが表示されます。



このウィンドウで、暗号化の動作に関するさまざまな指定を行います。

4 - 1 . 暗号 / 復号又は施錠 / 開錠単位

「暗号 / 復号又は施錠 / 開錠単位」ラジオグループで、暗号化、復号、施錠あるいは開錠を、ファイル単位で行うか、あるいはフォルダー単位で行うかを決定します。

ファイル単位で処理する場合には、ひとつのファイルを対象にしてファイルの暗号化と復号を行います。

フォルダー単位で処理をする場合には、フォルダーを指定し、フォルダー内のすべてのファイルの暗号化または復号を行います。その場合、下位フォルダー内のファイルを処理するかどうかを選択することができます。

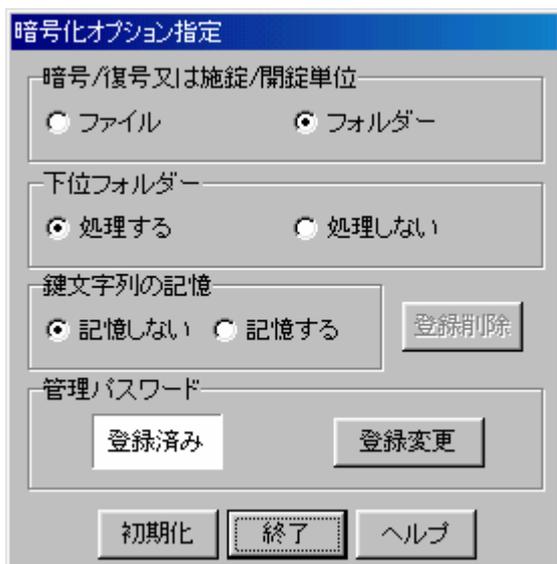
4 - 2 . 下位フォルダーの処理

下位フォルダーラジオグループを使用して、暗号化、復号、施錠あるいは開錠の対象として指定されたフォルダーの下位フォルダーにあるファイルを処理対象にするかどうかを指定します。

「処理する」を選択している場合には、フォルダーを選択して暗号化、復号、施錠あるいは開錠を実行したときに、そのフォルダー自身の中におかれたファイルだけでなく、そのフォルダーの下位におかれたフォルダーの中のファイルも、すべて処理の対象になります。

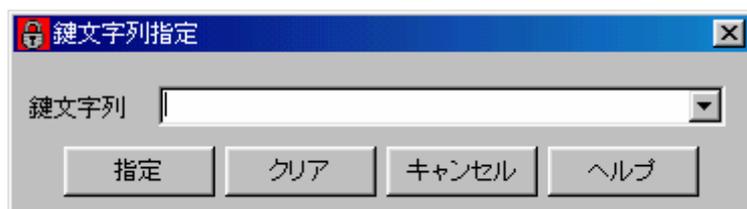
「処理しない」を選択している場合には、指定フォルダーの中にあるファイルだけが暗号化、復号、施錠または開錠の対象になります。

4 - 3 . 鍵文字列の記憶



「鍵文字列の記憶」グループボックスで、暗号化、復号、施錠または開錠のために使用する鍵文字列を記憶して参照できるようにするかどうかを指定します。暗号化 / 復号処理及び施錠 / 開錠処理は、選択した鍵文字列に依存します。暗号化または施錠したファイルを復号または開錠するためには、暗号化したときと同じ鍵文字列を指定しなければなりません。

「鍵文字列の記憶」グループボックスで「記憶する」を選択すると、指定した鍵文字列がメインウィンドウから呼び出される「鍵文字列指定」ダイアログの鍵文字列コンボボックスに記憶され、選択できるようになります。



また、このオプション設定ウィンドウで、「登録削除」ボタンを押して、新たに鍵文字列を登録したり、あるいは変更したり削除したりすることができます。

「鍵文字列の記憶」グループボックスで「記憶しない」を選択すると、「鍵文字列指定」ダイアログの鍵文字列コンボボックスに記憶されている鍵文字列を参照することができなくなり、また、新たに指定した鍵文字列も記憶されなくなります。さらに、このオプション設定ウィンドウで、「登録削除」ボタンを押して、新たに鍵文字列を登録したり、あるいは変更したり削除したりすることもできなくなります。

4 - 4 . 鍵文字列管理パスワード

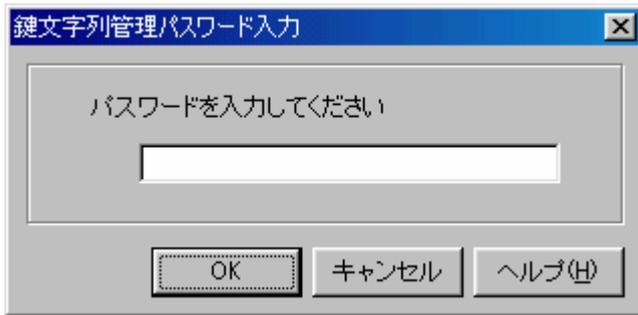
「暗号化オプション指定」ウィンドウで、鍵文字列管理用のパスワードを指定することができます。このパスワードを指定しておくことで、記憶されている鍵文字列を参照したり、登録変更したりすることを、パスワードで保護することができます。

パスワードを登録する場合には、「暗号化オプション指定」ウィンドウの「管理パスワード」ページの「登録変更」ボタンを押してください。ボタンを押すと、「鍵文字列管理パスワード指定」ウィンドウが表示されます。

このウィンドウには三つの入力フィールドがありますが、まだ、パスワードを指定したことがない場合には、あるいは、パスワードが削除されている場合には、最初のフィールドである「現在のパスワード」フィールドは使用可能状態になっています。その場合には、「新しいパスワード」フィールドと「確認入力」フィールドに同じ文字列を入力して、「OK」ボタンを押してください。二つのフィールドの入力文字列が一致していれば、入力が受け入れられ、パスワードが登録されます。

すでにパスワードが登録されている場合にこのウィンドウを開くと、「現在のパスワード」フィールドが使用可能な状態になり、現在のパスワードを正しく入力し、新しいパスワードと確認入力に同じ文字列を入力して、「OK」ボタンを押せば、パスワードを変更することができます。あるいは、現在のパスワードを正しく入力し、新しいパスワードと確認入力フィールドを空のまま「OK」ボタンを押すと、パスワードが除去され、パスワードが登録されていない状態になります。

パスワードが登録されている場合には、鍵文字列の管理を行うときに、具体的には「鍵文字列の記憶」で「記憶しない」となっている指定を「記憶する」という指定に変更する場合にパスワード入力が必要されます。



4 - 5 . 鍵文字列の登録削除

鍵文字列の記憶オプションが「記憶する」になっている場合には、「暗号化オプション指定」ダイアログで、「登録削除」ボタンを押して、鍵文字列の登録変更削除を行えます。

登録削除ボタンを押すと、鍵文字列登録変更削除ウィンドウが表示されます。



このウィンドウは、登録済み鍵文字列のリストボックス、登録文字列の入力フィールド及び、四つのボタンから構成されています。

1 . 鍵文字列の登録

入力フィールドに、まだ登録されていない文字列を入力して、登録ボタンを押すと、新しい鍵文字列が追加登録されます。

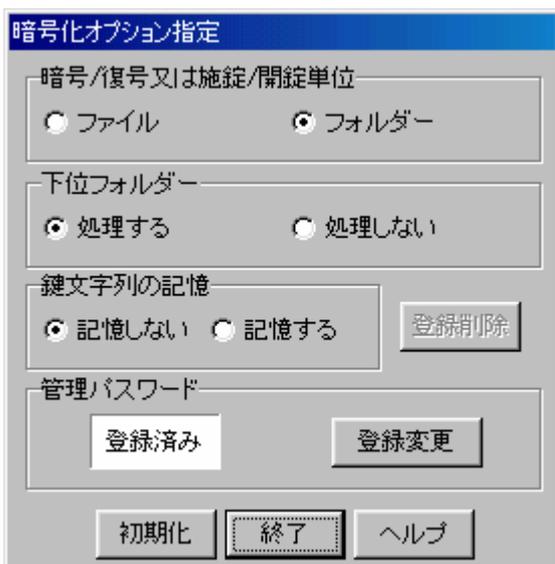
2 . 鍵文字列の変更

鍵文字列のリストで、すでに登録されている鍵文字列を選択すると、その内容が入力フィールドにコピーされます。そこで、リストボックスの選択状態を保持したまま入力フィールドの文字列の内容を変更して、変更ボタンを押すと、鍵文字列が変更されます。

3 . 鍵文字列の削除

鍵文字列のリストで、すでに登録されている鍵文字列を選択して削除ボタンを押すと、鍵文字列が削除されます。

4 - 6 . 初期化



「暗号化オプション指定」ウィンドウで、「初期化」ボタンを押すと、確認メッセージ出力後、設定の状態が初期化されます。設定の初期状態は、以下の通りです。

暗号 / 復号又は施錠 / 開錠単位：ファイル

下位フォルダー：処理する

鍵文字列の記憶：記憶しない

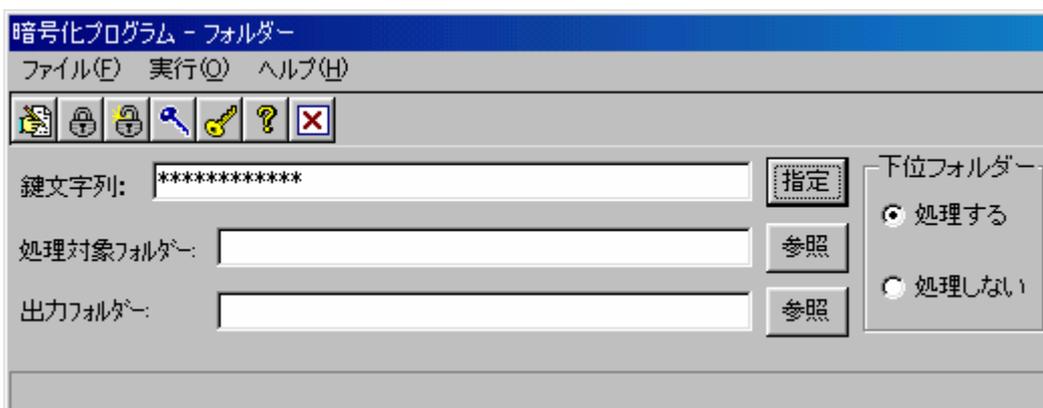
管理パスワード：未登録

また、記憶されている既存の鍵文字列は、失われます。

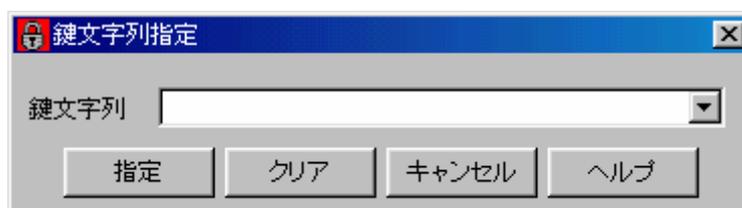
4 - 7 . 鍵文字列の指定

暗号化、復号、施錠または開錠を行うためには鍵文字列を指定する必要があります。鍵文字列は、8 バイト以上 50 バイト以下の任意の文字列です。暗号化されたファイルまたはフォルダーを復号するため、あるいは施錠されたファイルまたはフォルダーを開錠するためには、暗号化で使用したのと同じ鍵文字列を使用する必要があります。

現在指定されている鍵文字列は、メインウィンドウの「鍵文字列」フィールドに暗号文字列形式で表示されています。このフィールドでは、鍵文字列の内容を見ることはできず、このフィールドに鍵文字列を、直接、書き込むことはできません。



鍵文字列を指定するためには、鍵文字列フィールドの右隣の「指定」ボタンを押してください。このボタンを押すと、「鍵文字列指定」ダイアログが表示され、鍵文字列を指定することができます。



設定で、鍵文字列の記憶が「記憶する」になっている場合には、記憶されている鍵文字列が鍵文字列のコンボボックスに残されており、そこから鍵文字列を選択することができ、また、新たな鍵文字列を入力することもできます。入力した新しい鍵文字列は、記憶されてコンボボックスに追加されます。

設定で、鍵文字列の記憶が「記憶しない」になっている場合、記憶されている鍵文字列を参照することができず、入力しなければなりません。また、入力した文字列は記憶されません。

このダイアログで 8 バイト以上 50 バイト以下の鍵文字列を選択または指定して「指定」ボタンを押すと、メインウィンドウに戻り、鍵文字列が指定されます。

このダイアログで、「クリア」ボタンを押すと、現在指定されている鍵文字列はクリアされ、メインウィンドウに戻り、鍵文字列は指定されていない状態になります。

このダイアログで「キャンセル」ボタンを押すと、メインウィンドウに戻り、鍵文字列の指定の状態は変化しません。

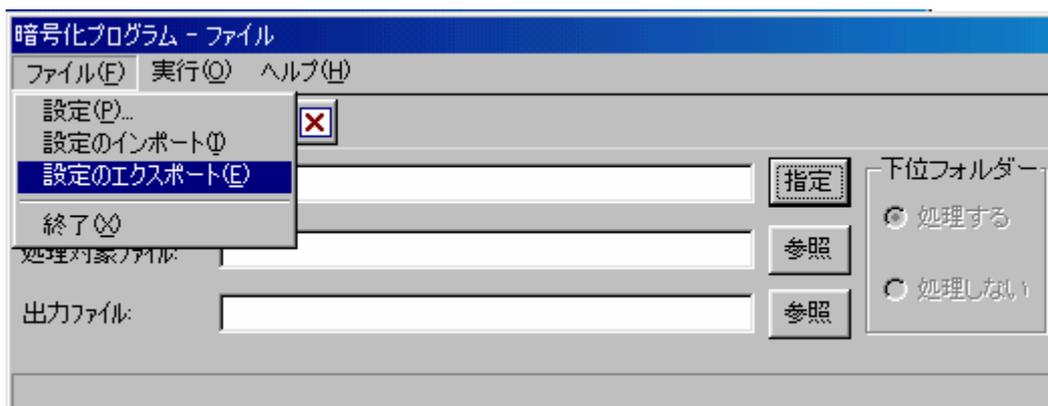
4 - 8 . 設定のエクスポート

設定のエクスポートを使用して、現在の設定状況をファイルに保存することができます。エクスポートされたファイルに保存された設定状況は、設定のインポートによって、取り込むことができます。

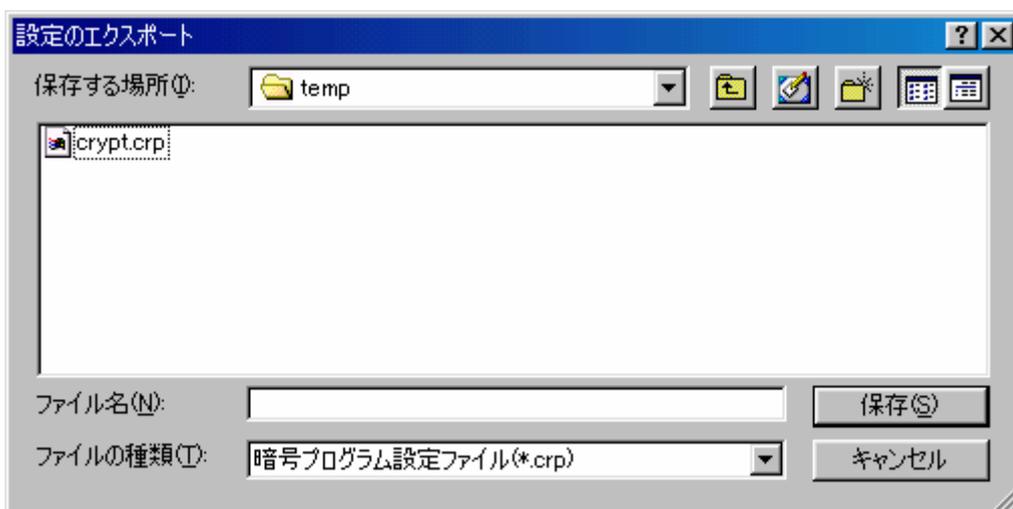
設定のエクスポートを行うためには、最上位画面のメニューバーで

ファイル 設定のエクスポート

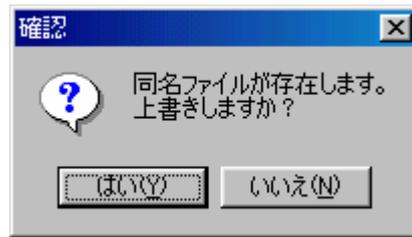
を選択します。



メニューで設定のエクスポートを選択すると、設定のエクスポートダイアログが表示されます。



このダイアログで、前に設定をエクスポートしたときに作成したファイルを選択して、開くボタンを押すと、エクスポート処理が行われます。すでに存在するファイルをエクスポートファイルに指定すると、上書きするかどうかを確認するメッセージが表示されます。



設定が正常にエクスポートされると、その旨を通知するメッセージが表示されます。



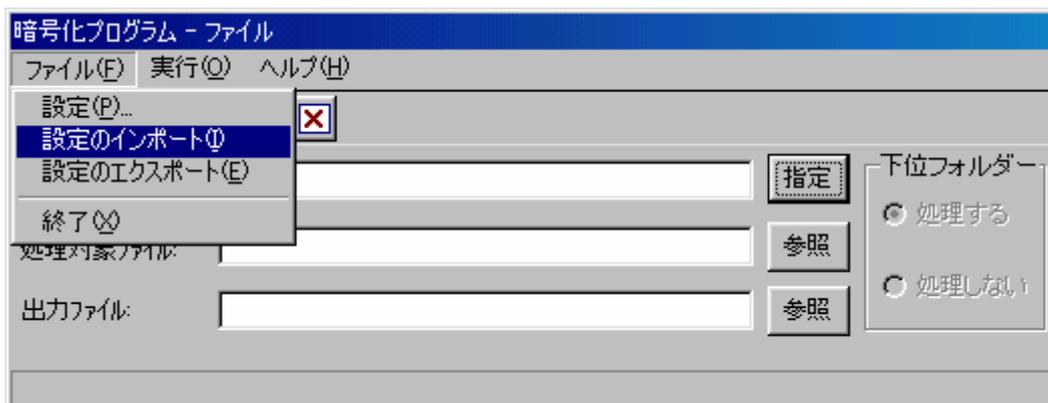
4 - 9 . 設定のインポート

設定のインポートを使用して、前にファイルにエクスポートしている設定を取り込んで（インポート）、現在の設定にすることができます。

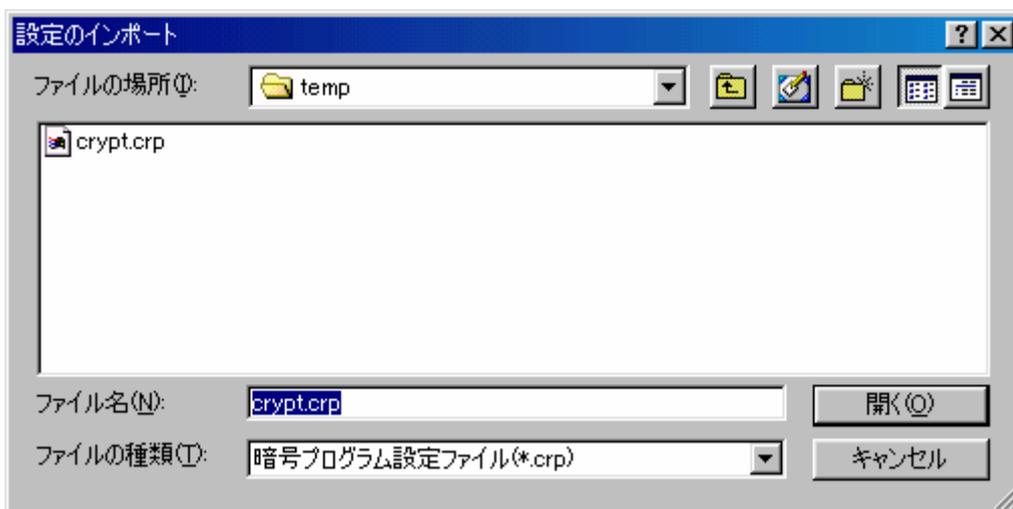
設定のインポートを行うためには、最上位画面のメニューバーで

ファイル 設定のインポート

を選択します。



メニューで設定のインポートを選択すると、設定のインポートダイアログが表示されます。



このダイアログで、前に設定をエクスポートしたときに作成したファイルを選択して、開くボタンを押すと、インポート処理が行われます。指定したファイルが正しい設定ファイルでない場合には、エラーメッセージが表示され、インポートは実施されません。



正しい設定ファイルを指定した場合には、設定がインポートされ、その旨を通知するメッセージが表示されます。



5 . ファイルの暗号化 / 復号

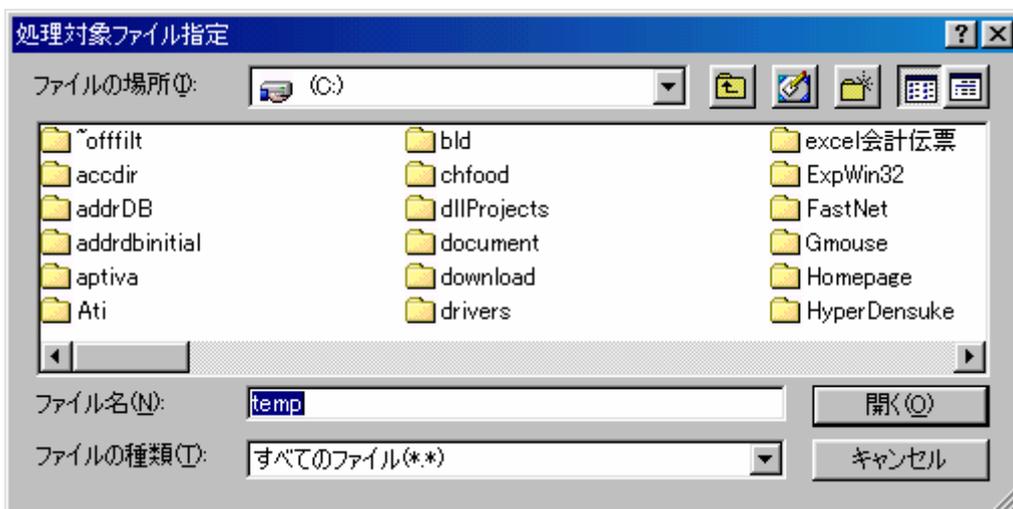
設定で処理単位がファイルになっている場合には、メインウィンドウのキャプションが
暗号化プログラム - ファイル

となります。

このとき、暗号化または復号の処理対象はひとつのファイルになります。

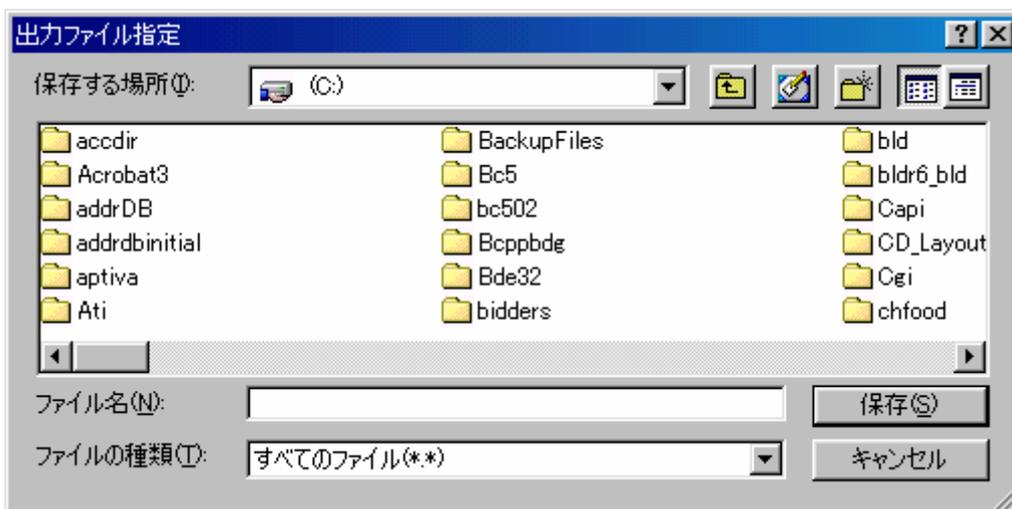
5 - 1 . 暗号 / 復号ファイルの指定

メインウィンドウの「処理対象ファイル」入力フィールドに暗号化または復号するファイル名を指定します。フィールドの右となりの「参照」ボタンを押すと、ファイルダイアログボックスが表示され、ファイルを選択することができます。



5 - 2 . 出力ファイルの指定

メインウィンドウの「出力ファイル」入力フィールドに暗号化または復号した結果を出力するファイル名を指定します。フィールドの右となりの「参照」ボタンを押すと、ファイルダイアログボックスが表示され、ファイルを選択することができます。



このフィールドを指定しないと、暗号化または復号の結果は、入力ファイルに上書きされます。

5 - 3 . 暗号 / 復号処理

鍵文字列、暗号化 / 復号ファイル名及び出力ファイル名を指定して、メニューバーで

実行 暗号化

を選択するかまたは、ツールバーでボタンを押すと、ファイルの暗号化が行われます。

鍵文字列、暗号化 / 復号ファイル名及び出力ファイル名を指定して、メニューバーで

実行 復号

を選択するかまたは、ツールバーでボタンを押すと、ファイルの復号が行われます。

処理中はプログレスバーで進捗状況が表示され、ステータスバーには進捗割合と経過時間、残り時間が表示されます。

6 . フォルダの暗号化 / 復号

設定で処理単位がファイルになっている場合には、メインウィンドウのキャプションが

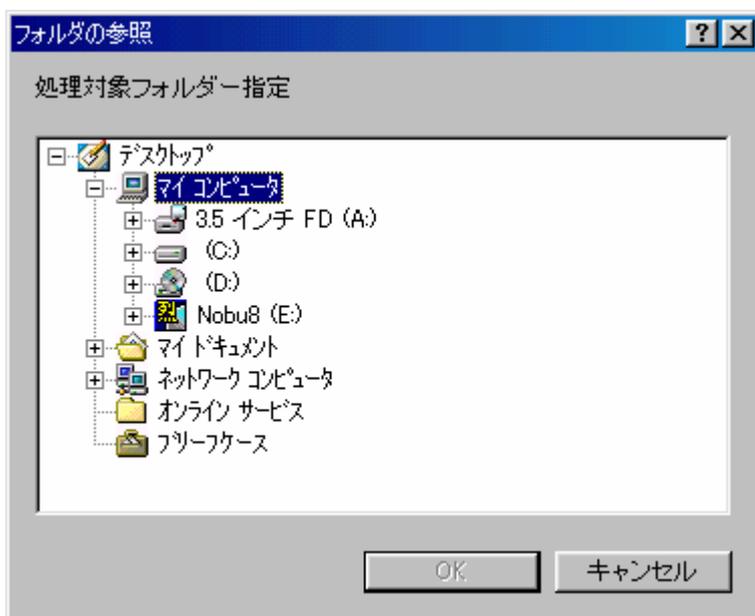
暗号化プログラム - フォルダ

となります。

このとき、暗号化または復号処理の対象はひとつのフォルダの中の全ファイルになります。ただし、下位フォルダの設定が「処理する」になっている場合には、指定フォルダの下位に位置するすべてのフォルダ内のファイルが対象になります。この設定が「処理しない」になっている場合には、処理対象は指定フォルダ内のファイルに限られます。

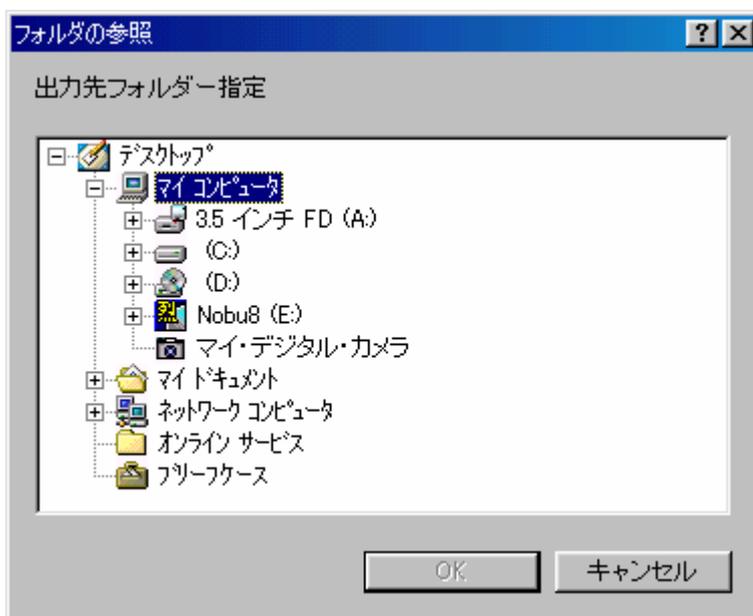
6 - 1 . 暗号 / 復号フォルダーの指定

メインウィンドウの「処理対象フォルダー」入力フィールドに暗号化または復号するフォルダー名を指定します。フィールドの右となりの「参照」ボタンを押すと、ディレクトリー選択ダイアログボックスが表示され、フォルダーを選択することができます。



6 - 2 . 出力フォルダーの指定

メインウィンドウの「出力フォルダー」入力フィールドに暗号化または復号した結果を出力するフォルダー名を指定します。フィールドの右となりの「参照」ボタンを押すと、ファイルダイアログボックスが表示され、ファイルを選択することができます。



このフィールドを指定すると、暗号化または復号の結果は出力フォルダーの直下に作成されます。

このフィールドを指定しないと、暗号化または復号の結果は、入力フォルダーに上書きされます。

6 - 3 . 下位フォルダーの処理

メインウィンドウの「下位フォルダー」ラジオボックスで、「処理する」が指定されている場合には、指定フォルダーの下位に位置するフォルダー内のファイルが暗号化 / 復号処理の対象になります。「処理しない」が指定されている場合には、指定フォルダー内のファイルだけが処理対象になります。

下位フォルダーの処理は、「暗号化オプション指定」ダイアログで指定することもできます。

6 - 4 . 暗号 / 復号処理

鍵文字列、暗号化 / 復号フォルダ名及び出力フォルダ名を指定して、メニューバーで

実行 暗号化

を選択するかまたは、ツールバーで  ボタンを押すと、フォルダの暗号化が行われます。

鍵文字列、暗号化 / 復号フォルダ名及び出力フォルダ名を指定して、メニューバーで

実行 復号

を選択するかまたは、ツールバーで  ボタンを押すと、フォルダの復号が行われます。

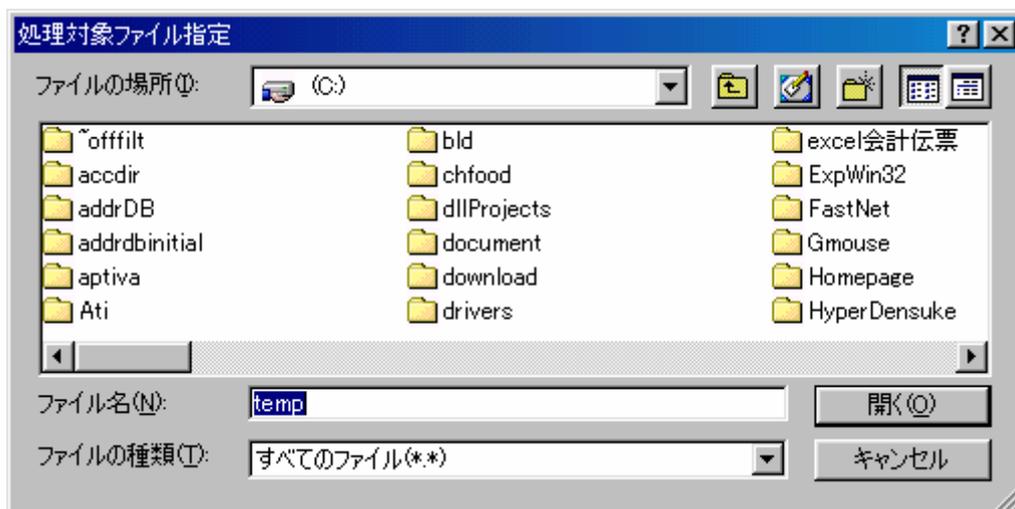
処理中はプログレスバーで進捗状況が表示され、ステータスバーには進捗割合と経過時間、残り時間が表示されます。

7. ファイルの施錠 / 開錠

処理単位の設定がファイルの場合には、施錠 / 開錠処理の対象が一つのファイルになります。ひとつのファイルに対して施錠処理を行うと、ファイルに対する通常のアクセスができなくなり、ファイルの機密が保護されます。施錠されたファイルは、開錠処理によってアクセスできる状態に戻すことができます。

7 - 1 . 施錠 / 開錠ファイルの指定

メインウィンドウの「処理対象ファイル」入力フィールドに施錠または開錠するファイル名を指定します。フィールドの右となりの「参照」ボタンを押すと、ファイルダイアログボックスが表示され、ファイルを選択することができます。



7 - 2 . 施錠 / 開錠処理

鍵文字列、施錠ファイル名を指定して、メニューバーで

実行 施錠

を選択するかまたは、ツールバーでボタンを押すと、ファイルの施錠が行われます。

鍵文字列、開錠ファイル名及び出力ファイル名を指定して、メニューバーで

実行 開錠

を選択するかまたは、ツールバーでボタンを押すと、ファイルの復号が行われます。施錠 / 開錠処理では、出力ファイル名を指定しても無視されます。

施錠 / 開錠に要する処理時間は、ファイルのサイズに関係なくほぼ一定です。処理対象のファイルのサイズが大きい場合、施錠 / 開錠処理は、暗号化 / 復号処理に比べれば、はるかに短時間で実施することができます。施錠 / 開錠が正常終了すると、その旨メッセージで通知されます。



8 . フォルダの施錠 / 開錠

設定で処理単位が「フォルダ」になっている場合には、メインウィンドウのキャプションが

暗号化プログラム - フォルダ

となります。

このとき、施錠 / 開錠処理の対象はひとつのフォルダの中の全ファイルになります。ただし、下位フォルダの設定が「処理する」になっている場合には、指定フォルダの下位に位置するすべてのフォルダ内のファイルが対象になります。この設定が「処理しない」になっている場合には、処理対象は指定フォルダ内のファイルに限られます。

8 - 1 . 施錠 / 開錠フォルダーの指定

メインウィンドウの「処理対象フォルダー」入力フィールドに施錠または開錠するフォルダー名を指定します。フィールドの右となりの「参照」ボタンを押すと、ディレクトリ選択ダイアログボックスが表示され、フォルダーを選択することができます。



8 - 2 . 下位フォルダーの処理

メインウィンドウの「下位フォルダー」ラジオボックスで、「処理する」が指定されている場合には、指定フォルダーの下位に位置するフォルダー内のファイルが施錠 / 開錠処理の対象になります。「処理しない」が指定されている場合には、指定フォルダー内のファイルだけが処理対象になります。

下位フォルダーの処理は、「暗号化オプション指定」ダイアログで指定することもできます。

8 - 3 . 施錠 / 開錠処理

鍵文字列、施錠 / 開錠フォルダー名及び出力フォルダー名を指定して、メニューバーで

実行 施錠

を選択するかまたは、ツールバーでボタンを押すと、フォルダーの暗号化が行われます。

鍵文字列、施錠 / 開錠フォルダー名及び出力フォルダー名を指定して、メニューバーで

実行 開錠

を選択するかまたは、ツールバーでボタンを押すと、フォルダーの復号が行われます。

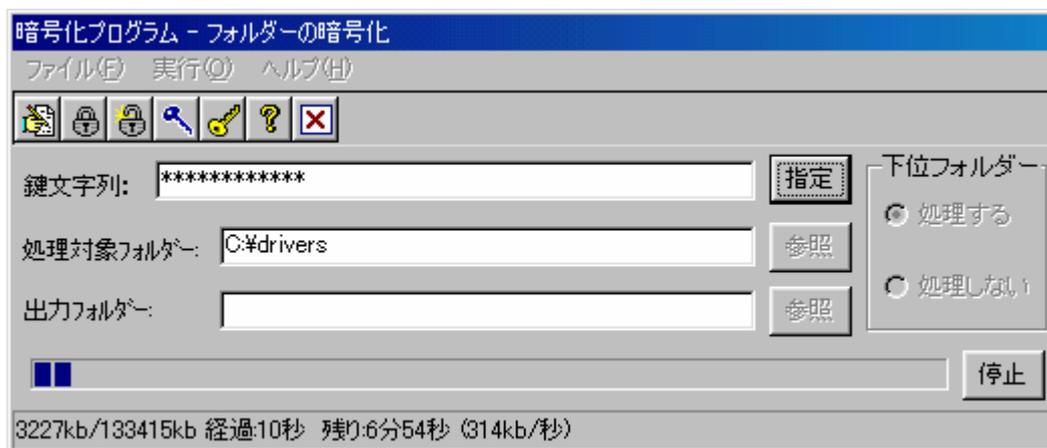
処理中はプログレスバーで進捗状況が表示され、ステータスバーには進捗割合と経過時間、残り時間が表示されます。施錠 / 開錠処理の所要時間は、処理する対象ファイルの件数に比例します。処理する対象ファイルのサイズの合計に所要時間が比例する暗号化 / 復号処理に比べると、施錠 / 開錠処理は同じ対象に対してはるかに短時間で処理を終了することができます。

9 . 進捗表示

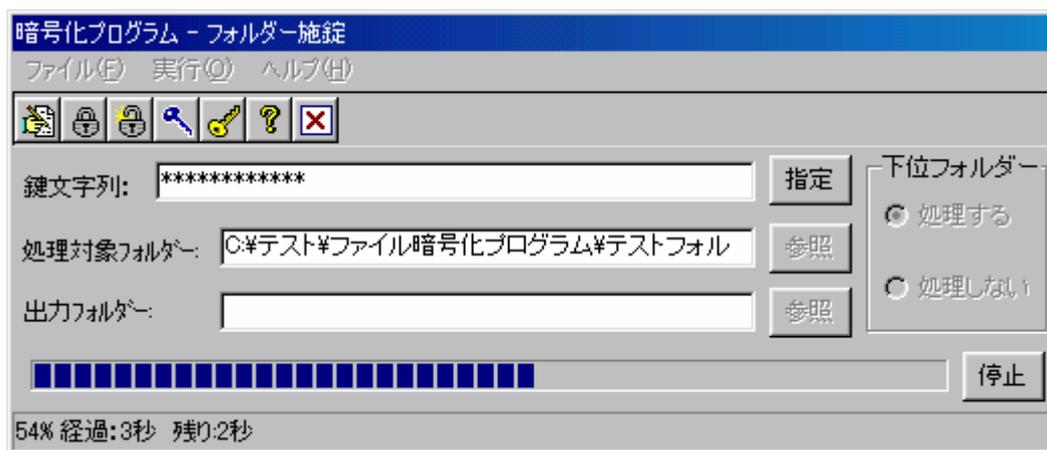
暗号化、復号処理及び、フォルダー単位の施錠・開錠処理は、ある程度の処理時間を消費します。これらの処理の実施中は、メインウィンドウにプログレスバーが表示され、ステータスバーにも状況を示す情報が表示され、処理の進捗状況を見ることができます。また、必要に応じて処理を中断することができます。

9 - 1 . プログレスバーの表示

暗号化、復号およびフォルダーの施錠・開錠処理が開始すると、メインウィンドウにプログレスバーが表示され、進捗状況が示されます。暗号化、復号処理の進捗表示は、処理対象ファイルのサイズの合計に対する処理済分ファイルのサイズの合計の割合で表示されます。



フォルダーの施錠および開錠処理の進捗表示は、処理対象ファイルの件数で計算され、進捗度のパーセントで表示されます。



9 - 2 . 進捗状況の表示

暗号化または復号の実行中には、メインウィンドウのステータスバーに以下の情報が表示され、進捗状況が明示されます。

処理済容量

全体の容量

経過時間

推定残り時間

処理速度

フォルダーの施錠または開錠の実行中には、メインウィンドウのステータスバーに以下の情報が表示され、進捗状況が明示されます。

処理進捗割合 (%)

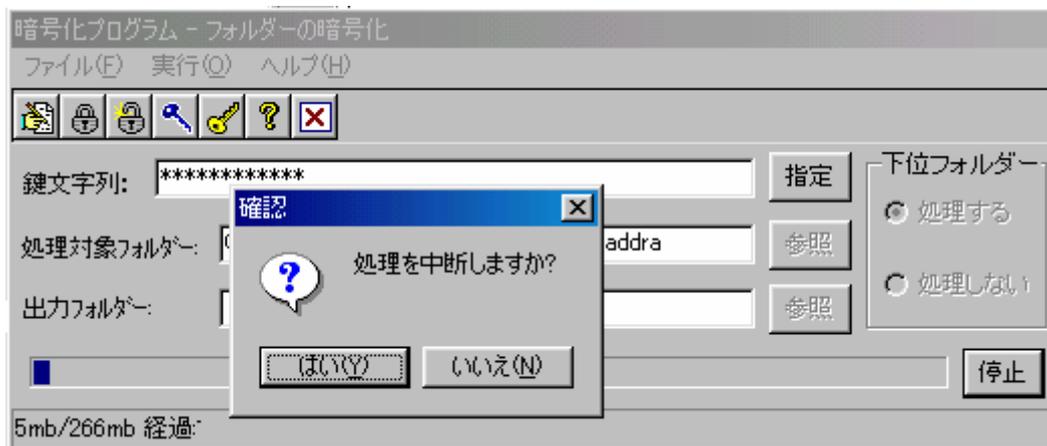
経過時間

推定残り時間

処理速度

9 - 3 . 処理の中止

暗号化、復号、フォルダーの施錠または開錠処理中に、「停止」ボタンを押すと、処理を中止するかどうかを確認する確認メッセージボックスが表示されます。



このメッセージボックスで、「はい」を応答すると、暗号化、復号、フォルダーの施錠または開錠処理が中止されます。「いいえ」を応答すると、処理が続行されます。処理の途中で中断した場合の状態は、暗号化 / 復号処理の場合には、処理を開始する前の状態に戻ります。施錠、開錠処理の場合には、処理が中途まで行われた状態になります。つまり、施錠または開錠されたファイルとされていないファイルが混在する状態になります。この場合でも、施錠、開錠の処理をもう一度繰り返せば、フォルダー全部のファイルの施錠または開錠を完全にすることができます。

9 - 4 . 後処理

暗号化または復号処理の主処理が完了した後、後処理が行われます。後処理工程に入ると、処理の中止は行えません。

施錠または開錠処理には、後処理工程はありません。

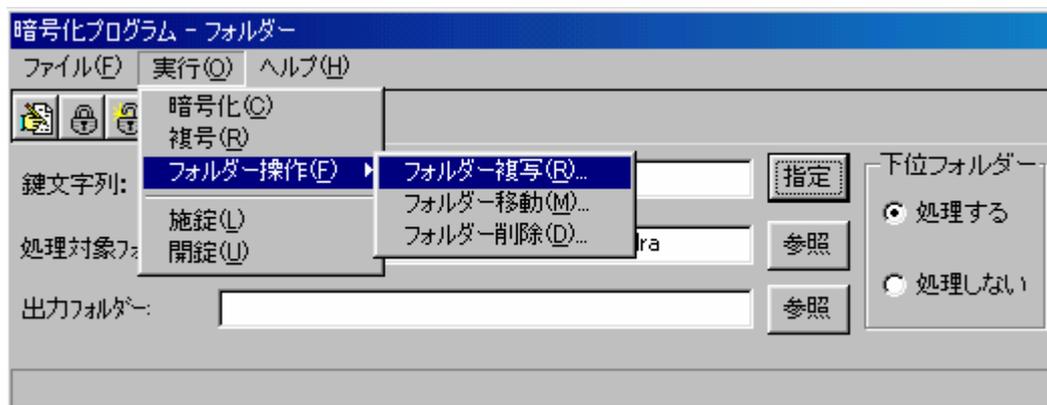
10．フォルダー操作

ファイル暗号化プログラムでは、フォルダー単位の暗号化を行い、その結果を操作する必要がありますので、フォルダー操作のツールを付加しました。

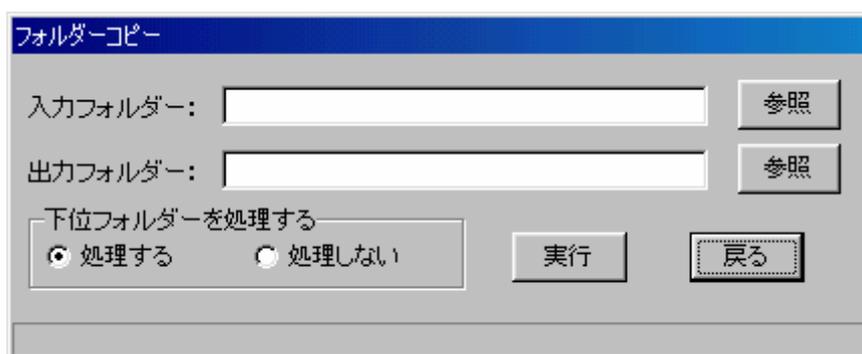
10 - 1 . フォルダーコピー

メインウィンドウのメニューバーで

実行 フォルダー操作 フォルダー複写



を選択すると、フォルダーコピーウィンドウが表示されます。



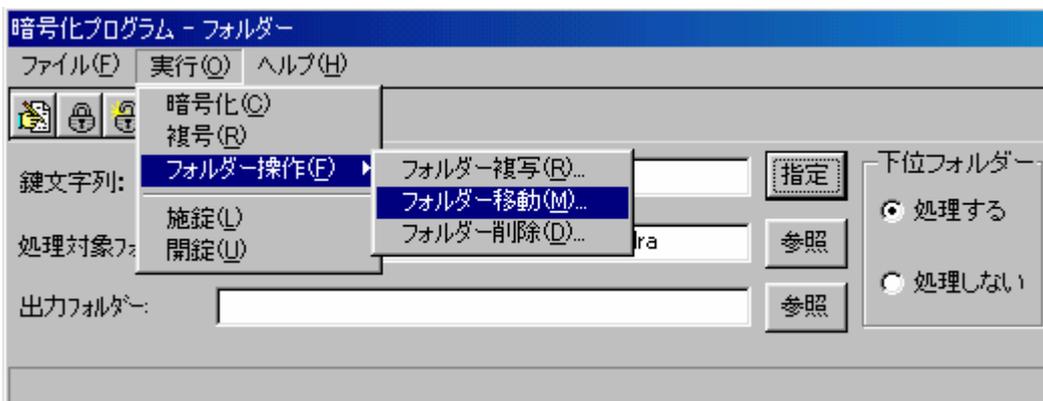
このウィンドウで、入力フォルダー、出力フォルダーを指定して実行ボタンを押すと、フォルダーの複写が実行されます。入力フォルダーは出力フォルダーの直下に複写されません。

「下位フォルダーを処理する」ラジオグループで、「処理する」を選択している場合には、下位フォルダーを含めて複写が行われます。「処理しない」が指定されている場合には、指定フォルダーのファイルだけが複写されます。

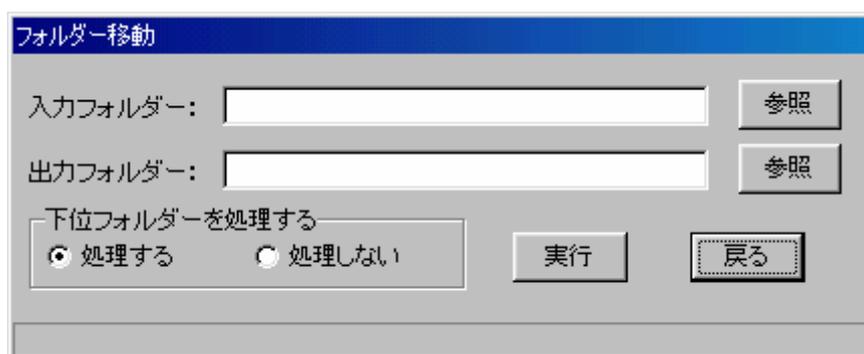
10 - 2 . フォルダ移動

メインウィンドウのメニューバーで

実行 **フォルダ操作** **フォルダ移動**



を選択すると、フォルダ移動ウィンドウが表示されます。



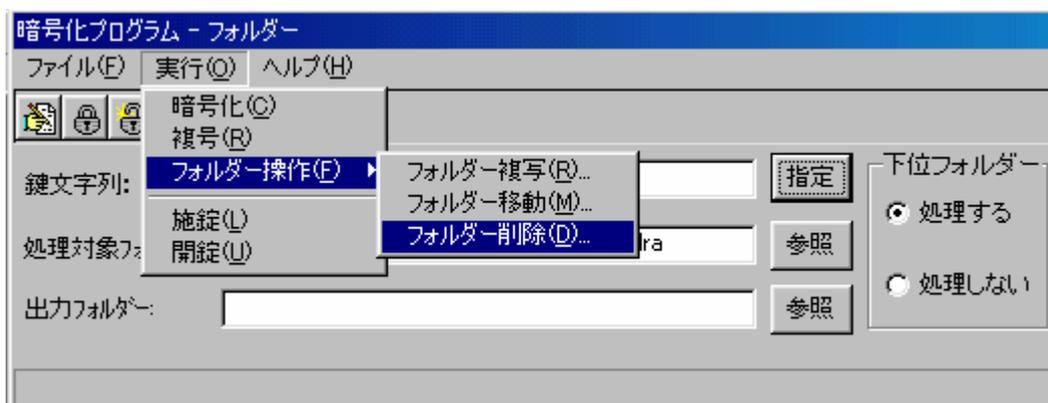
このウィンドウで、入力フォルダ、出力フォルダを指定して実行ボタンを押すと、フォルダの移動が実行されます。入力フォルダは出力フォルダの直下に移されます。

「下位フォルダを処理する」ラジオグループで、「処理する」を選択している場合には、下位フォルダを含めて移動が行われます。「処理しない」が指定されている場合には、指定フォルダのファイルだけが移動されます。

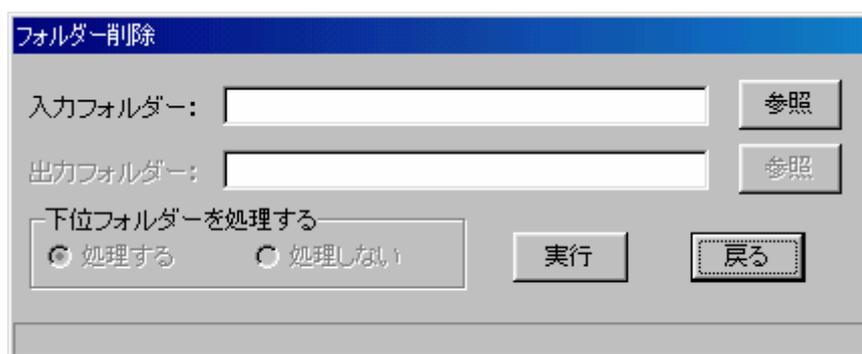
10-3. フォルダ削除

メインウィンドウのメニューバーで

実行 フォルダ操作 フォルダ削除



を選択すると、フォルダ削除ウィンドウが表示されます。



このウィンドウで、入力フォルダを指定して実行ボタンを押すと、フォルダの削除が実行されます。フォルダの削除では、「下位フォルダを処理する」ラジオグループの指定にかかわらず、下位フォルダを含めての削除が行われます。

付録 1 . 使用条件、注文方法

ファイル暗号化プログラムはシェアウェア製品であり、評価目的以外にこれを使用する場合には代金の支払いが必要です。使用条件の詳細については、ライセンス情報を参照してください。

ファイル暗号化プログラムの登録のご注文については、以下のホームページなどを参照してください。

<http://home.a00.itscom.net/konansft/eps/base/eps10reg.htm>

ファイル暗号化プログラム 3.0 操作マニュアル

発行 有限会社コーナンソフト

東京都墨田区押上 1-19-2

FAX: 03-3616-8224

Email service@konansoft.com

発行年月日:2004 年 3 月 23 日